

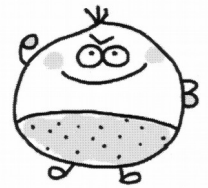
HDM推進会（第5回）／ごみゼロネット推進会（第27回）議事録

開催日： 2010年（H22年）8月 30日（月）14:00～16:00

場所： ウエスト

出席者： 大橋、市原、杉本、平林、加藤、加賀谷、川村、桐生（作成）

議題：



1. 8/26ごみ特別委員会 傍聴の感想

- 深澤 Bの態度が始めと終わりで変わってきた。最初は東京都の多摩建築指導事務所が堆肥化施設と判断しているから難しいと述べているが、各議員が激しく反駁して論拠が崩され、最後には周辺住民の説得問題に逃げ込んだ。稲葉市長は「方式をHDMと決め込まれると苦しい」と述べていた。（加藤）
- 行政は「やらない」とは言わないが、具体的な話になると「ああだ、こうだ」とはぐらかす。困難があってもやり遂げるという姿勢は見られない。挙げる問題点を次々と議員たちから反駁されて逃げ道を封じられた。（平林）
- 建築指導事務所に「堆肥工場だから駄目です」と言ってもらいたい気持ちがありありと出ていた。（大橋）

2. 多摩建築指導事務所に堆肥施設と判定されないための方策

- これが「ごみ処理施設」であるかどうかどう説得すればよいか。堆肥工場とは法律でどう定義されているかという面から説得できないか。小平市では堆肥施設だからこのままでは認許出来ないとと言われても、行政が熱意を持って問題点を潰し、認許に漕ぎ着けている。小金井市は堆肥施設でもないのに、ごみ処理施設と説得できないでいるが、小平市を見習ってほしい。（市原）
- ごみ特の件はフォレスト社に伝えて、説得方法を相談する。（加藤）

3. 行政との次回打合せの設定

- 議員たちの追求のお蔭で、10月より前に行政と次の会合を設定できることになった。9/14に次回のごみ特があるから、ごみ対策課はその前に指導事務所に相談に行くと思われる。それより前9/16～10月辺りで設定できないか。（加藤）
- 9/2に行政と会って、日程を決めてくる。その時の議題を決めておきたい。（大橋）
- 「堆肥化ではない。ごみ処理である」ことの説明法は当然の議題だが、それと併せて「家庭用生ごみ処理機購入補助金の剰余金（見込61百万円）をHDM実証試験に使用すること」も是非挙げて欲しい。（桐生）

4. 情報交換

- 小金井市の収集は13種類に分別している。市の一人当たり可燃ごみ量は日本一少なくなりつつある。業務用は料金を上げたために事業者たちが自分たちで処理業者に依頼したために、一気に34%減少した。（加藤）
 - 松島の旅館は自分たちでHDM処理を始めている。（大橋）・・・見に行きたいとの発言多し。
 - 市長は建物が高いような発言をしているが、サンライフのテント方式なら安価である。一度、その観点から詳しく見学に行ってみてはどうか。（平林）
 - 杉本氏より前原小学校の生ごみ拠点回収のデータについて、資料2件を用いて詳細な説明があった。加藤氏よ
- り拠点毎に1人当たりのごみ投入量に相当大きいバラツキがあること、前原はやや多い方だが、もっと多い拠点もあると解説があった。
- 市民へのPR活動もタイミングを見て始めたい。（市原）・・・大橋氏がその計画の私案を映像で見せた。次回以降の会議の議題とする。
 - 大橋氏より実証試験施設の見積の説明・・・設備費は約2,500万円、1年間のランニングコスト約408万円。

以上

次回打合せ

日時： 9月 27日（月） 10：00～12：00 / 場所：喫茶店ウエスト

1 / 1